

生活習慣病でご受診される患者様へ

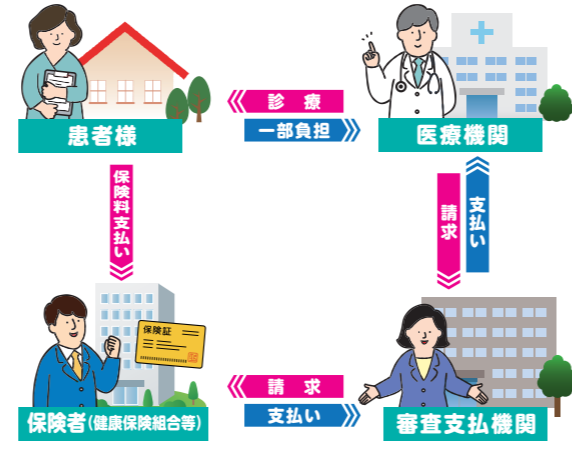
糖尿病 **高血圧** **脂質異常症**

当院は、厚生労働省が主導する、令和6年度 診療報酬改定に伴い、質の高い生活習慣病管理に取り組みます。

診療報酬改定とは？

日本では全国民に加入が義務付けられている公的医療保険制度があり、病気やけが等の際に保険証を提示することで医療行為を受けることができます。医療機関に、その対価として支払われる費用が「診療報酬」と呼ばれ、厚生労働大臣が定めた医療行為の1つひとつの点数を足し合わせて算出した金額となります。年齢や所得により1割〜3割の自己負担分は患者様が、残りを加入している医療保険者が医療機関に支払うことになります。

医療の進歩や日本の経済状況を踏まえて、通常2年に一度、診療報酬の点数(1点=10円)の見直しが行なわれます。これを「診療報酬改定」と言います。



今年がその改定の年

今回の改定で増加する「生活習慣病」に対応する効果的・効率的な疾病管理及び重症化予防の取り組みを推進する目的で見直しがされました。

生活習慣病にて当院をかかりつけ医としていただいている患者様に、順次取り組みの説明をさせていただき、指導に沿った診療を開始いたします。



重大な健康リスクへと繋がります

生活習慣病には、慢性的な炎症、臓器障害などの深刻な合併症があります。重症化予防の為、当院にて療養計画書をもとに質の高い生活習慣病管理を行ないます。



医療スタッフより

- 生活習慣病の治療方法は患者様1人ひとり異なります。掲げた目標達成に向け診療を行ないます。
- 生活習慣病の改善へ向け、私達看護師もサポートします。
- 安心・安全にお薬を服用できるようにサポートします。お薬の服用について不安な点があれば、薬剤師に相談してください。
- 生活習慣病の改善には食生活を見直すことが大切です。まずは食事の確認をしてみましょう。

内科部長 曾根辰巳 | 外来看護師一同 | 薬局長 久保田 勲 | 栄養管理室長 深谷 朋子

該当する患者様には、ご説明の上で同意のもと「生活習慣病管理料」を算定させていただきます。管理料を含めた診療費等、何かご質問がございましたら総合受付スタッフへお問い合わせください。

編集後記

新年度になりました!今年桜が綺麗に咲いていて、お花見をされた方も多んじゃないかなと思います。この季節は様々な花が咲いていて、ウォーキングや散歩をしていると、とても楽しい気持ちになりますね。しかしながら、寒暖差があったり、嵐のような天候の日があったりで、私は体調を整えるのに苦労しました。花粉症もあるので、寒い日は風邪をひいているのが花粉症の影響なのか分からなくなってしまい、困ります。これから春の健康診断があるので、結果を体調管理に役立てようと思っています。皆様もご自身の体調・健康管理に是非健康診断をご利用いただければうれしいです。年に1度は健康診断や人間ドックを、是非ご検討ください。

健康管理センター 福島 義彦

えぼしめ〜る vol.29



医師紹介

新着任ドクター

循環器内科

おかだ たくや
部長 岡田 拓也

卒業年数最終学歴
平成8年卒 医学博士

資格・所属学会

- ・日本内科学会:総合内科専門医
- ・日本循環器学会:循環器専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会:同認定医



平成8年に自治医科大学卒業後、神奈川県内の中核病院を中心に医療活動を行ってきました。幅広い循環器疾患に対応可能です。ご相談ください。

麻酔科

いとう ひろたか
部長 伊藤 博隆

卒業年数最終学歴
平成5年卒 防衛医科大学
平成18年卒 名古屋立大学 大学院
医学研究科 生体情報・機能制御医学
専攻医学博士課程

資格・所属学会

- 麻酔科標榜医、麻酔科認定医、JB-POT認定医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、麻酔科指導医、臨床研修指導医資格、日本麻酔科学会、日本心臓血管麻酔学会、日本集中治療医学会、日本臨床麻酔科学会、International Anesthesia Research Society (IARS)、Society of Cardiovascular Anesthesiologists (SCA)、American Society of Anesthesiologists (ASA)、European Society of Anaesthesiology and Intensive Care (ESAIC)、European Society of Regional Anaesthesia (ESRA)



常勤麻酔科医として、患者様の信頼と安心を第一に考えています。趣味は読書と自然散策で心をリフレッシュし、継続的な研鑽で医療技術の向上を目指しています。

これからも患者様に最高の周術期管理を提供するため、努力と情熱を惜みず取り組んでまいります。

令和6年度 茅ヶ崎徳洲会病院 入職式・オリエンテーション

4月1日(月)入職式が行われ、今年度採用者 看護師9名、診療放射線技師3名、臨床検査技師1名、臨床工学技士1名、理学療法士3名、医事課1名、総務課1名 計19名が参加しました。

入職式では立川院長から一人一人に辞令が交付され、式が終わると、早速オリエンテーションが始まります。新卒の職員も既卒の職員も、皆一様に緊張してオリエンテーションを受講し、各部署の紹介をはじめ、各種講義

や消火訓練等、グループワークでは、色々な職種が知恵を出し合いました。

日程はあっという間に過ぎ、無事に各部署へ配置されました。

まだ巣立ったばかりの新卒職員も、他機関での経験を積んで入職した既卒職員も、早く環境に慣れ、持てる力を存分に発揮して欲しいと思います。

入職からまだ間もなく、不慣れな点もあるかと思いますが、温かく見守っていただければ幸いです。

フレッシュな新入職員の今後に期待しています。



Emergency Room
doctor

患者様の病気や怪我を知り、

治療を行うため、

患者様との会話を重視した

診察を心がけています

内科・ER

王生倉 洋介

みぶくら ようすけ



医師を目指したきっかけ

高校時代は長距離選手として部活動に励み、いつかは箱根駅伝の選手になるということを夢見ていました。本格的な受験勉強が始まると、部活動に加えて塾にも行くようになり、遅い時間に帰宅するという生活に変わりました。

この頃、ちょうど私が家に帰るタイミングで、仕事に出掛ける父とすれ違うことが頻繁にありました。当時、循環器の医師だった父は、ほぼ毎日夜遅くに往診に出かけており、真夜中に帰宅するといった生活を続けていましたが、朝9時には診察室に入って患者様と向かい合っていました。

受験勉強をしている傍らで懸命に働いている父を見ていくうちに、自分も同じように人を助ける仕事に就きたいと強く思うようになり、医師を目指すことになりました。

医学の道に進んだ後、私が選択したのはERでした。研修中、さまざまな診療科で実習をしましたが、中でも緊急時に先の先を読んで治療を行い、瞬間瞬間でジャッジを下していくERの先生の姿を見て、自分もこのようになりたいと思ったのがきっかけです。

ERの仕事は、先の先を読む力、先手を打つ力、そして状況に応じた状況判断力が求められる、まさに長距離走のような仕事だと私は思います。常に相手と

駆け引きを行い、相手の顔色を伺いながら走り続けなければならないという意味では、長距離走が好きな自分の性格に最も合っている診療科であると思っています。

ERではどのような診療をしていますか

突発的な病気や交通事故などによる怪我、その他の症状により、救急車で搬送されてきた患者様の初期診療に当たるのが我々ERの仕事となります。

救急隊から連絡が入ったとき、まずは患者様の置かれている状況や症状について細かく聞くようになっています。そのときの会話をもとに、患者様の症状を予測したうえで、処置の準備を進めていきます。

こうした状況においては、いつも時間が限られており、瞬時に適切な判断を下す必要があります。そのため、



常に緊張感を持ちながら患者様を救うための処置に取り組んでいます。

また、搬送されてくる患者様の容体は一人ひとり異なるため、それぞれの症状に対処することができるよう日々勉強をし、アップグレードすることも怠らないようにしています。

なお、初期診療の後に専門の先生にバトンタッチをするまでがERの仕事であるため、患者様の受け渡しまでに漏れがなく、スムーズに移行できるよう心がけています。

これまでの患者様の中で印象に残った出来事について教えてください

あるとき、ぜんそく持ちの85歳の方が急性の呼吸不全肺水腫で搬送されてきました。すぐに気道挿管を行い、人工呼吸器の処置をしたものの、意識は戻らず、昏睡状態が続いていました。

なんとか意識を取り戻して欲しいと、毎日データを眺め、次に出てくる症状を先読みし、先手を打って処置を行いました。すると、2ヶ月後には自発呼吸ができるようになり、さらに喋ることができるまでに回復してくれました。

最終的には、約4ヶ月で退院することができ、自らの足で歩いて帰られたのですが、そのときは本当に嬉しく、この仕事をやっていて良かったと心から思いました。

患者さんと接する中でどのようなことを心がけていますか？

患者様が医師と話をするとき、おそらく我々の言葉は非常に重いものとして受け取られているのではないのでしょうか。だからこそ、齟齬(そご)がないよう患者様との会話は丁寧に行い、また自ら発する言葉には責任を持って発言しなければならないと思っています。

一刻を争うERにいるときは、患者様の発する言葉に集中し、一言も聞き漏らさず、そのときの状態を的確に見抜くことに注力します。そして、正しい処置や診察を行えるよう努めています。

また、内科医として診察する場合には、問診を非常に重視しています。患者様の言葉の中にもしかすると大きな病気につながるようなヒントがあるかもしれないため、慌てずゆっくりと会話を行うことによって、その奥に潜むかもしれない病気を探り出すことを心がけています。



広報誌をご覧になる
患者様へのメッセージ

病院に訪れる患者様の病気や不安を取り除くお手伝いをしたい、その一心で診療を行っています。そのため、医師として常に全力を尽くし、患者様に向き合うことをお約束します。

ところで、患者様の病気の状態を細かく見るため、場合によっては診療時間が長くなってしまい、お待たせすることもあるかもしれません。

しかし、全ての患者様の病気を見つけ出し、治療するために必要な時間ですのでご了承いただければ幸いです。

